

“令和 今から ここからNEWステージへ”

創造と変革を続けるTBグループ

創業70年を超え、創造と変革を続けるTBグループ。テレビ部品の製造から始まり、レジスターやデジタルサイネージ、インバウンド、ヘルスケアへと経営環境に適応して事業形態を変化させている。グループをけん引する村田三郎会長兼CEO（最高経営責任者）は今回、生体肝移植など先端的外科治療分野を長年けん引してきた医師で、京都大学名誉教授の田中紘一氏と対談した。企業経営と医療の各領域で異彩を放つ両者は、互いに理解を深めながら次代を想い、語り合った。



京都大学名誉教授
京都大学病院元院長
田中 紘一氏

1966年京都大学医学部卒業。95年同大学院医学研究科移植免疫学講座教授（01年同医学部附属病院院長兼務）。05年同名誉教授、元神戸市立医療センター中央市民病院技術顧問。06年パドワ大学（イタリア）名誉学士。元神戸国際医療交流財団理事長。元先端医療振興財団副理事長。



TBグループ 代表取締役会長兼CEO
村田 三郎氏

1969年船井電機入社。フナイ電機商事取締役を経て、78年ビッグサンズ創業（ビデオ機器メーカーとしてTVブリカカード・LEDサイネージ機器を開発）。2007年からTBグループ代表取締役会長（CEO）。長崎市観光大使。

記者：2019年中間決算はいかがでしたか。

村田：おかげ様で増収増益の好業績となりました。消費税率引き上げに伴う軽減税率の特需を生・販・チーム一体でうまく捉えました。下期以降は、キャッシュ（現金）とデジタル（電子決済）の共存期となる5年間を、店舗・サービス業オーナーの意向を反映した「キャッシュハイブリッド」型で商材システムを開発投入予定です。

記者：事業分野を3つに分けてグッド3Kと言われていますが、簡単に説明してください。また、NEWステージも併せて教えてください。

村田：グッド3Kとは“環境・健康・観光”の頭文字をとったネーミングです。環境分野はLEDサイネージ及びLEDライト関連事業です。現在LEDサイネージの中・小型分野ではトップメーカーですが、NEWステージは、DOOH（デジタル アウト オブ ホームメディア）です。インターネット/IoT/5Gの技術革新により、安価に大量に情報を送れる時代となりました。多言語対応入力、そしてマイクロLEDビジョン、シースルーなどの最新テクノロジーの商品システムを企画開発中です。日常はイベント/広告、緊急時は避難所などの案内「SALINAC」（商標登録）などの情報サービス事業を本格化します。

健康分野は、関連会社（株）ホスピタルネットは病院でのプライベートカード方式のテレビ/冷蔵庫のレンタルビジネスで、病床約40万床に活用していただいています。NEWステージは、IPTV/ICカード/スマホなどを活用した「スマテ

レ」（商標登録）で、患者さんのQOL（クオリティ オブ ライフ）を高めさらに病院の働き方改革及び経営改善に役立ちたいと思っています。

観光分野は、カプセルホテル「まゆ玉事業」と子会社（株）Mビジュアルで展開しているインバウンド向けホテルソリューション事業を拡充強化します。今回対談します京都大学病院の元院長田中先生が企画スタートされる、田中医療創造研究所を核としたガン免疫治療の先端クリニックで、中国及びベトナムにおける事業に共感し協業を始めます。

記者：それでは田中先生、先生の田中医療創造研究所の概念をご説明ください。

田中：中国・アジア諸国を訪問し現場の実情から見ると日本での先端医療を受けたい、さらに日本よりの医師/看護師の派遣要請が私の元に多数寄せられています。そこで今回、（株）田中医療創造研究所を立ち上げることにしました。設立の目的は、特に次の3点です。

- ①日本の先端医療を海外医療機関に展開する日本式医療の国際化事業
- ②国際レベルの臨床医療教育・トレーニングによる人材育成事業
- ③医療の質及び技術向上のためのシステム開発と事業化

村田：我々は田中先生と医療ツーリズム、そして病院/在宅でのスマートヘルスケア部門で協業してまいります。日本政府も、インバウンドの奨励による地方創生、未病の「早く見つけ早く治す」をIoTを活用して推進されます。田中先生の事業は、その先端を行く極めてニーズの高い分野です。

田中：医療現場も5G及びAIを活用したシステムの導入、そして将来ガン治療の主力となるガン免疫療法の普及を始めます。

村田：私も創業以来ドライブレコーダー（特許取得）や病院内カードシステム（特許取得）など、スタート時は普及率ゼロビジネスに取り組んできました。今回の協業は、我々の事業である健康と観光分野のシナジー効果もあり、インバウンド及び医師/看護師などのアウトバウ

ンドも含まれます。田中先生の魅力あふれる企画に賛同される企業及び団体を求めています。田中先生のビジョンを、大成させる一助になればと思っています。

田中：医療ツーリズムは、現状は検査・診断までのケースが大半です。もっと日本の病院における診断・治療がよくなると思っています。AIを使った通訳なども医療現場では必要です。テクノロジー（技術）とソサエティ（社会）両面を向上させていきたいと思っています。

<会社概要>

株式会社TBグループ
社是：喜んでもらう喜び 己もよろこびたい。
設立：1946年
東証Ⅱ部上場
資本金 40億円
事業内容・LED&ECO（LED表示機/LED照明）開発メーカー
・デジタルサイネージ開発メーカー
・電子レジスター/POS/スマートレジ開発メーカー
・まゆ玉メーカー

4月17日横浜関内にオープン カプセルホテル まゆ玉キャビン



まゆ玉キャビンの全景

病院/介護施設 個室のスマート化



- > 病院/介護施設向けにテレビ&IoT機器、AI家電などをシステム化して提供。
- > 室内テレビのスマート化に加えてAI機能を持った製品の展開を予定。見守り機能とあわせて、看護師/介護士の仕事量の大幅な削減を図る。
- > 計測するバイタルデータに対するAIによるバイタルデータの数値分析など科学的な健康状態管理も構想中。

室内テレビのスマート化(IPTV&AI対応)

- ① 各種コンテンツ/人気動画配信サービス
- ② AIスピーカーやテレビによる施設のインフォメーション提供
- ③ AIスピーカーによるアラーム・タイマー設定、ニュース・天気予報など各種情報の取得
- ④ 音声でのテレビ、照明やカーテン開閉の制御
- ⑤ 音声でのAI家電(お掃除ロボット)の制御
- ⑥ 環境データ(温度、湿度、空気質、音、照度)による家電の自動運転
- ⑦ リアルタイム見守り機能(バイタルデータや体動の監視)
- ⑧ テレビ電話(遠隔診療にも使用)
- ⑨ eコマース(スマホ決済機能)
- ⑩ ランドリーの使用状況をリアルタイムに通知 ※介護施設向